

令和 4 年度 事務事業評価シート

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	橋梁維持事業	会計名称	一般会計		担当課	土木管理課	
		予算科目	8 款 2 項 3 目	事業番号	3580	所属長名	武智博
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	西本仁	
法令根拠等	道路法施行規則 第4条				実施期間	【開始】	令和/平成 17 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり					【終了】	令和 7 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	本事業の推進により、橋梁の適確で計画的な維持・管理を行い、安全・安心な道路空間を維持形成するとともに、災害に強い道路網の構築を図る。			事業の対象	長寿命化修繕計画を策定した箇所の橋梁		
事業の目的	橋梁の老朽化に起因する事故等を未然に防ぎ、安全の確保を図る。			昨年度の課題	高度成長期以降に集中的に整備された橋梁の状態や損傷原因を把握し、適切な措置による長寿命化を図るとともに、突然の落橋など事故の危険性を低下させること。また、橋長の短いボックス等は職員で診断できるよう、適正な知識と技能を習得させること。		
事業の内容(整備内容)	市道に架かる橋梁の点検を行い、老朽化したものについて長寿命化修繕計画を策定し、計画的に修繕工事を実施する。			昨年度の課題に対する具体的な改善策	橋梁点検について、職員が技術講習を受講して、今年度初めて職員で点検を行った。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)					
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	前年度実績	4年度予定	9月末の実績	4年度実績
直接事業費	65,800	89,409	0	16,416	28,072	77,715	旅費	千円	0	0	0	0
財源内訳												
国庫支出金	36,527	50,418	△ 118	9,281	15,563	44,018						
県支出金	0	0	0	0	0	0						
地方債	12,400	27,700	2,000	6,700	11,800	22,500	委託費	千円	23741	45000	36960	41152
その他	0	0	0	0	0	0						
一般財源	16,873	11,291	△ 1,882	435	709	11,197	工事請負費	千円	22668	60816	36563	36563
職員の人工(にんく)数	0	0				0						
1人工当たりの人件費単価	7,841	7,794				7,794						
※ 直接事業費+人件費	65,800	89,409				77,715						
主な実施主体	伊予市		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		請負							
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)					5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	5年間の合計		
					113,500	130,000	130,000	130,000	100,000	603,500		
成果指標	指標	実施箇所÷予定補修箇所(63橋)=実施率			単位	区分年度	前年度	4年度	5年度	目標 7年度		
					%	目標	4	4	5	5		
	指標設定の考え方	実施率を上げることにより通行の安全性を確保することができる。			⇒	実績	2	3				
指標で表せない効果	非出水期に工事を行うため、年度内完成できない橋が多い。											

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		河川内工事のため、出水期 (5月から10月) については、原則として工事を行えない期間となっており工期設定が難しい。														
事業	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	合計点が	S	事業成果・工夫した点	道路メンテナンス会議等により、国土交通省・愛媛県と連携し道路インフラ整備を進めている。						
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1					14~15: S 10~13: A 8~9: B 5~7: C 3~4: D					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	合計点が	A				事業の苦労した点・課題	県管理河川については、非出水期 (11月から4月) になってからの作業開始となるため、工期設定が難しい。			
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
			施策への貢献度	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
		効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	合計点が	A		事業の方向性				計画的な維持管理を行うことで、安全・安心な道路空間を形成するとともに、災害に強い道路網を確保することが必要であるため、事業継続とする。		
			コスト効率	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
			市民 (受益者) 負担の適正	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
		評価	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1			合計点が	A	事業の方向性		■ 事業継続と判断する。 <input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する <input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する (判断の理由) 計画的な維持管理を行うことで、安全・安心な道路空間を形成するとともに、災害に強い道路網を確保することが必要であるため、事業継続とする。	
					社会情勢等への対応	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1								14~15: S 10~13: A 8~9: B 5~7: C 3~4: D
					市の関与の妥当性	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1								
有効性	事業の効果			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	合計点が	A	所属長の課題認識	点検結果に基づき、補修設計及び補修工事をするためには多額の費用やマンパワーが必要となる。今後、事業費の確保や新技術を活用しコスト削減に努める必要がある。						
	成果向上の可能性			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
	施策への貢献度			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
効率性	手段の最適性			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	合計点が	A			所属長の課題認識	点検結果に基づき、補修設計及び補修工事をするためには多額の費用やマンパワーが必要となる。今後、事業費の確保や新技術を活用しコスト削減に努める必要がある。				
	コスト効率			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										
	市民 (受益者) 負担の適正			5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1	5 4 3 2 1 5 4 3 2 1										